



# 健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

## 結核予防会創立75周年・総裁御就任20周年記念座談会開催

平成26年12月16日ホテルニューオータニ東京(東京都千代田区)において、結核予防会創立75周年・総裁御就任20周年記念座談会が開催されました。秋篠宮妃殿下ご臨席のもと、全国結核予防婦人団体連絡協議会中野都舎子会長、結核予防会工藤翔二理事長、島尾忠男顧問をはじめとした役員とともに初代総裁秩父宮妃殿下のご事績を振り返り、また現総裁秋篠宮妃殿下にお出まし頂いた行事についても当時のご感想など思い出をお話いただきました。



### 結核予防活動と ヘルス・コミュニケーション

#### 公益財団法人 結核予防会 総裁 秋篠宮妃

日頃から結核予防婦人会の様々な活動にご参加いただき、ありがとうございます。

皆さまは「ヘルス・コミュニケーション」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。すでにどこかでこの言葉を耳にされたことがあるかもしれません。

#### ヘルス・コミュニケーションとは

ヘルス・コミュニケーションは、健康や疾病に関わる情報を提供し、人々の考え方や行動を導き、健

康を高めるための手段の一つです。このコミュニケーションを効果的におこなうことによって、健康や疾病のリスクの認識を高めたり、そのようなリスクに適切に対応する方法を身につけたり、行動を変えたりすることなどに役立っています。

#### 結核対策とヘルス・コミュニケーション

世界保健機構(WHO)の報告書によると、国レベルで結核対策の方針を定め、治療薬や診断・治療の体制を整えることに加えて、結核が投薬によって完治する感染症であるという正しい知識を人々に普及させることが、結核の罹患率や死亡率を低下させるために必要であるとされています。そして、結核対策の目

標に合うメッセージを一貫して継続的に伝えること、実際に結核患者に接する医療関係者が正しい結核の知識をもち、患者と円滑にコミュニケーションをおこなう技術を学ぶ、結核について偏った見方をする人もいる可能性を考えにいて、結核の原因や伝染経路、症状、治療、および予防についての正確な情報を結核患者や一般の人々に対して様々な方法で伝えることが、効果的であるといわれています。

結核の中蔓延国から低蔓延国への移行をめざす日本でも、結核に関わる課題に対応する上で、ヘルス・コミュニケーションは重要な意味を持っているといえましょう。

例えば、結核患者と医療専門家との間のコミュニケーション、結核に罹患するリスクが高いと考えられ

る人々に向けられたコミュニケーション、そして広く一般の人々に向けて結核についての認知や知識を高めるためのコミュニケーションなどがあり、良質なコミュニケーションによって、協力して課題を解決することが可能になります。円滑な情報伝達のためには、関係者がお互いに必要なことを伝え合う、双方向のコミュニケーションが重要であると考えられています。

**DOTS の実施：**

**結核患者と医療従事者とのヘルス・コミュニケーション**

結核と診断された患者は、どのような治療を受けるのでしょうか。

病院で結核を発病していると診断された患者は、もし必要な場合には入院治療について、さらにDOTSと呼ばれる治療方法と内容などについて、様々な説明を医師や看護師から受けて、治療の内容に同意（インフォームド・コンセント）した上で、結核の治療を開始します。

DOTS（ドッツ、直接服薬確認療法）は、結核の世界標準の治療方法で、処方された複数の薬を6か月から9か月間、医療従事者の前で服用します。治療が終了するまで、毎日きちんと薬を飲み続けることが最も重要であり、咳や熱などの症状が治まったからといって、服薬をやめると、症状がぶり返したり、薬の効かない結核菌「多剤耐性菌」になってしまったりする可能性があります。

日本のDOTSでは、入院している患者は看護師の前で薬のみ、退院した患者や通院治療している患者は保健師や地域の支援者（薬局の薬剤師、ケアマネージャー、訪問看護師など）が協力して服薬を見守る仕組みになっています。

長期にわたる治療中、患者は薬の副作用に悩まされたり、複数の薬を服用することを煩わしく感じたりすることがあり、最後まで薬を服

用し続けるのが難しい人もいます。そのため、患者と医療従事者や支援者との適切なコミュニケーションがとても大切です。

DOTSを続けるために工夫して作られているのが「DOTS手帳」です。この手帳に患者が毎日の服薬や気になる副作用などを記録し、保健師等との面接で活用されています。また、日本語を理解できない患者のためには、英語版や中国語版などの手帳が作られ、必要とする情報が得られるよう、外国人向けに結核などの疾病について相談する窓口が設けられるなど、患者を支えるコミュニケーションのための様々な仕組みがあります。

**結核予防婦人会の活動：**

**地域の人々とのヘルス・コミュニケーション**

皆さまが参加されている結核予防婦人会は、1957（昭和32）年、長野県で結核予防婦人会長野県連合会が日本で初めて結成され、以後、全国に婦人会がつくられていきました。2年後の2017（平成29）年には、設立60年目を迎えます。



結核予防会 第1回複十字シール  
1952（昭和27）年発行

結核予防婦人会の初期の活動は、地域の身近な人々に呼びかけて、結核の住民検診受診率を上げ、結核患者を発見し治療できるように援助することでした。婦人会の活動は、厳しい結核の状況を改善し、結核罹患率を低下させるのに大きく貢献しました。

その後も、結核予防婦人会は全国

的な規模で活動し、現在は毎年9月の結核予防週間に各県の知事を表敬訪問して結核予防活動の重要性を伝え、さらに、複十字シール募金運動を通して、一般の方々に結核に関する情報を伝え、国内外の結核に関わる活動を支援しています。

また、婦人会の皆さまは、講習会等の参加によって学ばれた結核に関する情報を、地域の人々に分かりやすく伝えていく大事な務めを果たされています。例えば、結核を予防するために、規則正しい生活を送り免疫力を維持することや、定期的に健康診断を受けること、乳幼児にBCGワクチンを接種することなどです。

BCGワクチンは、特に子どもの結核予防に有効で、安全な予防接種として世界で用いられています。新生児や乳幼児が結核に感染・発病すると、重症化するため、BCGを生後1年以内に接種することが勧められています。接種を受けなければ、子どもが結核に罹る可能性が高くなり、また周囲の子どもにうつす可能性も生じます。最近では予防接種の効果や副作用などについて不安をもつ親も少なくないようです。そのために、結核をはじめとする感染症に罹るリスクとBCGなどのワクチン接種の効果について、分かりやすい情報を提供し、理解を深め、不安や疑問にも応えられるようなコミュニケーションを図ることは重要でしょう。

結核について正しく知り、適切な予防行動と早期発見の重要性や治療方法を理解することは、地域の人々を結核から守るだけでなく、結核を発病した患者が、周囲の人々から必要な協力を受けながら、安心して治療を続けるために、大きな力になるでしょう。

婦人会の皆さまが、地域の人々の健康を守るために、積極的に活動に取り組み、ヘルス・コミュニケーションを進め、活躍されていることを大変心強く思っております。

# 平成26年度地区別結核予防婦人団体 幹部研修会（5地区）開催

## 北海道地区

北海道健康をまもる地域団体連合会  
会長 齋藤 芳子



平成26年7月4日5日、国立大雪青少年交流の家にて平成26年度講習会を開催致しました。初日午後、真

夏の太陽が照り付けるなかウォーキングを実施、清流に涼を求め深緑に染まり汗を流しました。夕食後全体交流会で「健康の歌」を唱和、活動報告に移り地域住民の高齢化等運営の課題が多く提供されました。カンボジア訪問報告と食改善による「1日野菜500g」を手計り目ばかり体験で大変にぎわいました。2日目、公益財団法人結核予防会事業部顧問山下武子氏による演題「これからの結核予防婦人会の展望」はユーモアな講話で会場が笑いに溢

れていました。北海道対がん協会放射線技師中川栄志氏による「知ってほしい肺がん検診のこと」と喫煙の害については、健康をまもる活動の実践に際し大変勉強になりました。ありがとうございました。



に話をしていただきました。その後、結核予防会結核研究所対策支援部長の小林典子先生をコーディネーターにシンポジウムを行いました。テーマは「地域の健康を担う今後の婦人団体の役割について」各県の代表より活発な発表を行っていただきました。

翌日は、結核研究所名誉所長の森享先生による「BCG接種 - 子供の結核予防の決め手 -」、続いて、山辺こどもクリニック院長の板垣勉先生による「風邪って何だろう - 解っているようで解っていないもの -」、山形県健康福祉部医療統括監の阿彦忠之先生から「高齢者の結核の特徴と早期発見方策」と題して、実体験を交えながらの講演を賜り、結核への理解をさらに深めることができ、実りある有意義な研修会でした。

## 東北地区

山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会  
会長 五十嵐 雪子



平成26年度東北地区結核予防婦人団体幹部研修会が11月13日～14日の両日「天童温泉ほほえみの宿滝の湯」において、東北6県から約160名が参加して開催を致しました。

特別講演は結核予防会顧問の島尾忠男先生から「結核の現状と今後の展望について」わかりやすく丁寧



東海・北陸地区

静岡県結核予防婦人会  
副会長 鈴木 節子



去る、11月27日・28日の両日に渡り、『東海北陸地区結核予防幹部研修会』を静岡県にて開催いたしました。

講演会には、40名、翌日の視察には20名のご参加を賜り、おかげさまで盛会裏に終了することができました。

皆様と講演を拝聴し、たいへん嬉しく、有意義な時間を過ごすことができましたことに感謝しております。

何かと、人間関係が希薄になりつつある昨今ではありますが、そのような中、志を共にする方々と交流をもてるこのような機会は、たいへん貴重であると感じました。今後とも、『結核予防』の活動を絶やすことなく続けていく糧になると思えました。ご参加された方々が、同じお気持ちでいらっしやると幸いです。

最後になりますが、今回の開催にあたり、ご支援ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



近畿地区

兵庫県連合婦人会  
会長 北野 美智子



平成26年9月10日・11日、神戸ポートピアホテルに於いて、近畿地区の幹部講習会を開催致しました。

初日は、講師に結核予防会結核研究所対策支援部長小林典子氏をお迎えし、「結核の現状と複十字シール運動」についてご講演とグループディスカッションを実施しました。ディスカッションでは、他府県の活動状況を知ることができ、とても有意義なものとなりました。2日目は、「BCG接種子どもの結核予防の決め手」「予防接種の必要性」「身体が心が嬉しくなるウェルネス」の3講演を受講しました。

両日の講習会を通じ、結核の現状、複十字シール運動への取り組み等を再確認し、結核予防に関する知識の向上、婦人団体相互の親睦を図るいい機会となりました。



九州地区

健康を守る佐賀県婦人の会  
会長 三苫 紀美子



平成26年10月23日～24日に第46回九州地区結核予防婦人団体幹部講習会が佐賀市のグランデはぐれ

に於いて開催されました。

結核予防会事業部顧問の山下先生、結核予防会結核研究所森名誉所長、しんどう小児科進藤院長、東佐賀病院小江内科部長を迎えての充実した講義では、結核についての再認識と私達の活動のこれからのあるべき姿を御指導頂きました。シンポジウムでの熊本県・沖縄県・佐賀県の結核予防婦人会としての地域での活発な取り組みについての発表は、それぞれに得るところが多く見つか

り、これからの活動の更なる発展へとつながるものと確信できました。満足した講義内容の上に夜の交流会の各県からの出し物は年々グレードアップし会場は熱気ムンムン。雰囲気の良いさについ飛び出した素晴らしい(?)歌に大爆笑!これぞ婦人会!!「九州はひとつ」の合言葉通り心の通い合った婦人会の姿を目の当たりにし感動の連続でした。

この結束力を生かし今後私達の手で結核をなくそうと更に心に深く誓った2日間でした。

誰もが幸せであることを祈って!感謝。



## 複十字シール運動キャンペーン活動報告

### 結核予防婦人会秋田県連合会 会長 小玉 喜久子



複十字シール運動は、設立51年目を迎えている結核予防婦人会秋田県連合会の基盤となっている事業で

す。9月27日、県総合保健事業団専務他担当課の皆様の支援のもと、秋田駅前で開催されました。ピンクの半纏を着て色取り取りの風船を持った婦人会員は、シール運動リーフレット、結核の常識2014、ミニクリアファイル等を配布しながら、募金協力をお願いしました。秋田県マスコットのスギッチと一緒に撮るポラロイド写真は子供達に大人気、啓発も成功でした。



7月、キャンペーンに先立って開催した婦人会員交流研修会では『シール募金運動』をテーマとして、各地区の活動事例発表を行いました。募金の事前に首長・会長の連名で趣旨、用途、結核の現状内容のちらしを全戸に配布し「家庭に居て出来る国際協力」と呼びかけ募金、後に報告とお礼文を配布して、活動の活性化につなげているなど、発表は示唆に富み、結核のない明日をつくるためにシール運動を更に充実させたいと考える機会となりました。

### 石川県結核予防婦人会 会長 藤多 典子



8月1日全国一斉複十字シール運動が始まる前日、県庁に竹中副知事を表敬訪問しました。

結核の現状を説明し、まだまだあなどれない病気であることから複十字シール運動の大切さを強調しました。

また街頭PRは9月28日残暑が残る日、金沢市郊外のスーパー前で、結核予防会の方と一緒にしました。啓発物のボールペンとチラシを同封し「ボールペンが入っています」と言いながら渡しました。なかなか受け取ってもらえず、中には目を向けてさえ頂けない状態もありました。結核のことを知っていますか？と質問すると???「昔、流行った病気やろ」とか「もう無くなった病気だと思っていた」等の返事が返ってきました。「健康診断でレントゲン検査を受けて下さい。咳が続いたら診察を受けて下さい」…等説明してもなかなか真剣に聞

いて頂けない状態でした。

だからこそ私達婦人会の運動の大切さを再確認し、“健康の輪”を広げるため会員の輪を強力にし大きくしなければならぬと思いました。



### 奈良県健康を守る婦人の会 会長 中島 祐子



師走の声とともに、元気で良かった、あなたも私にもこやかな笑顔が寒さをふっ飛ばす。健康は何よりの財産

…改めて自分の健康に感謝せずにはいられない。特に、地産地消をふる回転させての我が家のいつもてんこ盛り・・・同様に健康の輪も「てんこ盛り」でありたい。特に街頭啓発の中でも行政「御所市」の協力は「半端じゃない」「明るい笑顔のある街づくり」そのものである。

それもこれもすべて、複十字シール運動から学んだ知識と体験が物語っている。と同時に自分自身の

意志を前向きに持つことが大切だと思う。

無理な運動や食事制限は健康を害するよりも自分自身が「イライラ」させて物事に集中できない。何事にも喜びのタネをまきみんなの幸せを心から願っている「健康を守る婦人の会」の主旨、目的を今一度心に刻み込んで新しい年を迎えてほしい。



山口県結核予防婦人会  
会長 林 登季子



今年のキャンペーンは、11月22日、阿武町道の駅で開催され、町をあげてのお祭り『さん3ふるさと祭』の会場で実施させていただきました。

当日はお天気に恵まれ、町民総参加のお祭り会場の中で、最初、舞台上上がる時間をいただきました。マイクで複十字シール運動のことを皆様に呼びかけました。その後会場内を回りました。

シールぼうやの着ぐるみが子供達に大人気で周りには人だかりができていました。

若い家族や子ども、学生、お年寄りまでみんなが集うお祭りの中で、地元阿武町の婦人会のメンバーが、チラシを配布し、募金を呼びかけながら会場内をくまなく回り、複十字シール運動の啓発を行いました。一人でも多くの方に、結核について

知識を持っていただき、健康な生活が送れるよう、私たちは活動を続けています。



沖縄県結核予防婦人連絡協議会  
会長 平良 菊



結核予防の活動は終わりのない決して停滞させることの出来ない世界的に取り組まなければならない活動ですね。

沖縄では平成6年結核予防婦人会が設立されました。会員は毎年の研修会での学習や情報発信により知識を得ており、年輩の方も忘れてしまった結核に目を向けるようになりました。

しかし多くの県民の意識はまだまだ低い現状であります。平成25年県内で251人が結核と診断され、

18人が亡くなり、集団感染も発生しました。

予防週間キャンペーン実施の後、早速婦人会全組織末端までの声かけとともにシール募金の開始、同時に1週間かけての企業回りを致します。会社の方が「結核はまだあるんですね」と聞いてきたりします。

県民のゆいまーる精神に助けられてのシール募金です。結核や肺がんに関する知識の啓発と予防意識を高めること、世界の結核制圧のための活動を胸に取り組んでいます。

※ゆいまーる精神とは、共に助け合っていくという沖縄の言葉です。



## カンボジアスタディツアーに参加して

公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会  
監事 上ノ山 幸子



平成26年度のカンボジアスタディツアーに結核予防婦人会の一員として参加いたしました。

11月24日、成田に集合し山下事務局長、結核予防会の市川普及広報課長と渡航前の打合せをし、翌25日に成田空港からバンコク経由、目的地のカンボジア首都プノンペンには夕方到着しました。結核予防会国際部の柳業務課長に迎えられ、バスでホテルに着きました。26日は、カンボジア結核予防会プロジェクトサイトの紳士服縫製工場視察、この会社では、1,800人の従業員の健康管理に保健室と保

健師を常駐し、体調管理に力を入れているそうです。また、室内に音楽を流して、快適に仕事ができるようにとのお話でした。会社を後にし、CATA結核事務所を表敬訪問し、モン・キ氏から、活動状況の説明を聞き、結核予防婦人会のシール募金から1,000ドルを贈り「結核制圧運動に有効に使って頂きたい」とお伝えしました。また、カンボジア婦人会の2名様と交流そしてCATAを後にし、JATA事務所も表敬訪問いたしました。27日は、未整備の道路を長時間走って、外務省N連プロジェクトサイトの病院長訪問、活動状況聞き、どうぞ長く活動を続けて頂きたいと願いながら病院内を視察し、日本から送った医療機器が活動しているかをお聞きしました。28日、CATAプロジェクトサイト視察、各病室に案内され、産婦人科で赤ちゃんが生まれ母子ともに元

気な姿にほほえましく思いました。また、シール号も診療所（ヘルスセンター）の皆さんと記念写真。帰りに診療所（ヘルスセンター）を訪問し、ひとりのお母さんが子供の首を見せて、リンパ線の腫れを訴えていました。昔日本でも、多くの手術で治していたことを思い出しました。

この度スタディツアーに参加し、4年前と随分と結核に対する組織づくりが、しっかりと出来ていること、ボランティア、婦人会の人達への研修が土台に、また、企業が従業員に対する健康管理に前向きな姿勢の効果だと思えます。カンボジア国の人も明るく、学生の姿が目に入ってきて人々が希望を持っていると思えました。カンボジアに負けなように、結核を日本からなくす運動を続けたいと思えました。



# 心の絆プロジェクト 2014 活動報告

震災から4年、被災地ではいまだに仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方が大勢いらっしゃいます。医療や福祉の細かいケアが行き届かない現状に、健康に不安をかかえ、見通しの立たない生活に不安をもちながら入居者の方々は暮らしています。

そうした仮設住宅の個別訪問や健康相談を通じて、被災者の方のさまざまな声に耳を傾けながら活動を継続しております。昨年、岩手県・宮城県・福島県の仮設住宅集会

場6ヶ所で、健康相談コーナーとして「肺年齢測定」を無料で実施いたしました。測定人数239名の会場内訳は以下のとおりです。

9月28日(日)	岩手県宮古市	24名
10月12日(日)	宮城県名取市	30名
10月25日(土)	福島県いわき市(双葉)	38名
10月26日(日)	福島県いわき市(楡葉)	25名

11月9日(日)	福島県郡山市	34名
11月24日(祝日)	宮城県気仙沼市	88名

全国結核予防婦人団体連絡協議会は結核予防会とともに、一般社団法人ヒューマン・ケア心の絆プロジェクト主催の健康セミナーやスポーツセミナーなど、様々な取り組みを通じて心のケアに向けた被災地での支援活動を共催しております。



## イラスト・カット募集

平成27年7月号(健康の輪No.114)に掲載するイラスト・カットを募集致します。  
花・動物・その他、何でも結構です。  
締切は、平成27年5月8日(当会必着)です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12  
TEL:03-3292-9288

